福岡市環境審議会議事録

I 開催日時等

1 日時 平成25年9月30日(月) 14:00~16:15

2 場所 アクロス福岡 7F 大会議室

3 議事

- (1) 福岡市の環境施策の実施状況等について(報告)
 - ア 循環型社会の構築
 - イ 温暖化対策の推進
 - ウ 自然環境の保全
 - エ 健康で安全・安心な環境の確保
 - オ その他の環境施策等
- (2) 環境審議会循環型社会構築部会報告(平成25年9月24日開催)
- (3) 資源物持ち去り行為を禁止する条例の検討について
- (4) 福岡市環境基本計画(第三次)素案策定作業部会の進捗状況について
- (5) 福岡市環境審議会視察について

4 出席者(五十音順, 敬称略)

氏名	役職等
青木 計世	(株)キューデン・エコソル常務取締役
○ 浅野 直人	福岡大学法学部教授
阿部 真之助	市議会議員
鬼塚 敏満	市議会議員
小野 仁	日本野鳥の会福岡支部長
包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授
楠田 哲也	九州大学東アジア環境研究機構特別顧問・名誉教授
黒子 秀勇樹	市議会議員
小出 秀雄	西南学院大学経済学部教授
古山 通久	九州大学稲盛フロンティア研究センター教授
今田 長英	福岡大学大学院工学研究科教授
栃木 義博	市議会議員
富永 計久	市議会議員
中芝 督人	福岡商工会議所事務局長
萩島 理	九州大学大学院総合理工学研究院准教授
久留 百合子	(株)ビスネット代表取締役/消費生活アドバイザー
藤本 顕憲	市議会議員
藤本 一壽	九州大学大学院人間環境学研究院教授
二渡 了	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
三宅 吉博	福岡大学医学部准教授
宮本 秀国	市議会議員
吉田 順子	特定非営利活動法人環境みらい塾理事長

○ 会長

I 議事録

1 開 会

●事務局（政策経営課長）

お待たせいたしました。定刻になりましたので、福岡市環境審議会を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を担当いたします、環境局政策経営課長でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議でございますが、委員数 28 名中、ただいま 21 名のご出席でございますので、福岡市環境審議会条例第 5 条第 2 項の規定による定足数を満たしていることをご報告いたします。

また、本会議は、福岡市情報公開条例第 38 条に基づき公開にて開催いたしますので、ご了承ください。

まず、審議会の開会に当たりまして、環境局長よりご挨拶を申し上げます。

●事務局（環境局長）

環境局長でございます。本日は、ご多忙の中、福岡市環境審議会総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆様方には日頃から福岡市環境行政の推進につきましてご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、今年の夏は全国各地で最高気温の更新が相次ぎました。福岡市におきましても、観測史上最高となる 37.9 度が観測され、また、35 度以上の猛暑日が 30 日も観測されるなど、記録的な猛暑となっております。また、気象庁発表にあるような経験したことのないような大雨により、全国でも多大な被害が生じております。このような猛暑や豪雨といった異常気象だけではなく、黄砂や PM2.5、越境大気汚染、さらにはエネルギー問題など、さまざまな問題が顕在化する中で、私たちを取り巻く環境は、近年、ますます複雑、多様化していることと改めて感じるところでございます。

私ども、環境局といたしましても、これらの変化に適切に対応する施策を実施し、また、一方で市民に身近なごみ処理や資源循環、多様な生物や自然を守り継いでいく取組みなどにつきましても、市民や事業者と一体となって取り組み、市民の生活の質を高めるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

本日は、福岡市の環境施策についての年次報告のほか、循環型社会構築部会の報告や第三次福岡市環境基本計画の策定の進捗状況などをご報告させていただきます。限られた時間ではございますが、委員の皆様におかれましては、どうか忌憚のないご意見とご指導を賜りますようお願いいたします。私の挨拶とさせていただきます。

●事務局（政策経営課長）

それでは、本日の会議で用いる資料の確認をいたします。恐れ入りますが、次第の裏面でございますが、事前送付資料、そして、本日配付する当日配付資料、その他ということで、資料を整理させていただいております。事前にお送りした資料といたしまして、議事次第のほか、右肩に資料 1、資料 3、資料 4、参考資料 3-1 と 3-2 と記載されたものがございます。本日お配りしている資料といたしまして、資料 2、資料 2-1、2-2、2-3、参考資料 3-3、資料 5、冊子で「平成 25 年度ふくおかの

環境」，それと座席表，名簿，関係例規集，そして，環境審議会の視察の出欠表を配付させていただいております。

事前にお送りした資料のうち，議事次第につきましては，本日修正したものをお配りしております。そのほかに閲覧資料といたしまして，「福岡市環境基本計画（第二次）」と「新世代環境都市ビジョン」，「新循環のまち・ふくおか基本計画」をご用意いたしております。資料に不足等ございましたらお持ちいたしますので，お手数でございますが挙手をお願いいたします。差しかえの資料は次第だけでございます。よろしゅうございますでしょうか。

本日の会議の時間でございますが，当初は14時から16時の2時間を予定しておりましたが，議題が多数ございますので，15分延長をさせていただきたいと考えております。大変ご迷惑をおかけしますが，どうぞご了承いただきますようお願い申し上げます。

2 議 事

●事務局（政策経営課長）

それでは，次第の「2 議事」でございます。これ以降の議事進行につきましては浅野会長にお願いいたします。浅野会長，どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

それでは，今日は議題が多数にわたりますので，儀礼的なご挨拶は省略させていただき，早速議事に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず，福岡市の環境施策の実施状況について事務局から報告をいただきます。

(1) 福岡市の環境施策の実施状況等について（報告）

●事務局（政策経営課長）

それでは，福岡市の環境施策について，ご説明いたします。

本件は，福岡市環境基本条例第11条に基づき，環境の状況並びに環境の保全及び創造に関する施策の実施状況について年次報告書を取りまとめたものでございまして，これをご報告するものでございます。また，環境施策の中には，大気汚染防止法や水質汚濁防止法，地球温暖化対策の推進に関する法律といった個別の法律により報告すべきものもございます。

詳細につきましては，お手元にお配りしております「平成25年度ふくおかの環境」をご参照いただきたいと思います。本日は時間の都合上，このパワーポイントにて説明をさせていただきます。

福岡市環境局の使命・目標は「ときを超えて人が環境と共に生きるまち」という環境像の実現に向け，各種施策を実施するものでございますが，施策の基本的方向や成果指標を定めているのが環境基本計画であり，この進行管理を行っているところでございます。環境基本計画の成果指標につきましては，この後の「議事(4)環境基本計画（第三次）の素案策定作業部会の進捗状況」の中で改めてご説明いたします。

次頁は福岡市の環境政策の体系図でございます。福岡市環境基本条例や環境基本計画，その下の

部門別計画などに基づきまして、環境政策を推進しております。今年度におきましては、福岡市地球温暖化対策実行計画、福岡市環境エネルギー戦略（仮称）の策定を予定しております。

それでは、分野ごとに各担当よりご説明を申し上げます。

ア 循環型社会の構築

●事務局（循環型社会計画課長）

それでは、循環型社会システムの構築についてご説明いたします。

まず、本市のごみ処理基本計画とごみ処理状況についてご説明します。

現在のごみ処理基本計画は新循環のまち・ふくおか基本計画として、平成23年12月に策定いたしました。この計画では、循環型社会づくり、適正処理、持続可能な社会の三つの基本方針のもとに、ごみ処理量とリサイクル率の目標を定めております。

まず、ごみ処理量ですが、棒グラフはごみ処理量、折れ線グラフは人口の推移を示しています。計画では、平成37年度の目標値は約47万トンで、基準年次の平成21年度に比べて11万トンの削減としております。平成24年度のごみ処理量ですが、申し訳ありませんが、お手元の資料の数字が誤っておりましたので、訂正をお願いいたします。正しい数字は56万3,000トンで、基準年次の平成21年度に比べ1万5,000トンの減少となっております。なお、詳細につきましては、議事(2)の循環型社会構築部会の報告の中でご説明いたします。

次に、ごみのリサイクル率です。棒グラフはごみのリサイクル量、折れ線グラフはごみのリサイクル率を示しております。計画では、平成37年度の目標値は38%で、基準年次の平成21年度に比べて10ポイントの増加としております。また、平成24年度のごみのリサイクル量は約24万5,000トンで、リサイクル率は30.6%であり、基準年次の平成21年度と比較すると2.2ポイントの増加となっております。

次に、家庭ごみの処理の流れでございますが、4分別で収集したごみは資源化センターや選別処理施設で破碎・選別して、9つの区分に分けて処理をしております。可燃物は清掃工場で焼却し、焼却後の灰と不燃物は埋立場で埋め立て、鉄、アルミ、瓶、ペットボトルはリサイクルをしております。清掃工場では、焼却時に発生する熱を利用して発電を行っており、発電した電力は工場内で利用するほか、余った電力は電力会社を通して一般家庭などに供給しています。平成24年度の発電量は4つの工場合計で約2億7,700万キロワットアワーで、これは約5万3,000世帯分の年間電力量に相当します。また、ごみ発電による二酸化炭素の削減効果は約14万6,000トンでした。次頁は西部(中田)埋立場です。福岡市の埋立場は環境への負荷が少なく、世界的に注目されている福岡方式と呼ばれる埋立技術で埋立てを行っております。

次に、ごみ減量・リサイクル施策のうち、新しい取組みについてご説明します。

まず、レアメタルの資源化促進です。使用済み小型家電については、平成22年6月から市内のスーパーなどに回収ボックスを設置してモデル事業を実施していましたが、平成25年4月の小型家電リサイクル法の施行に伴い、区役所や地下鉄の駅などに8月から回収ボックスを増設し、本格実施

を開始いたしました。

次に、事業系ごみについては、事業系ごみ資源化推進ファンドを活用して、資源化に向けた事業者の取組みを支援しております。平成 25 年 3 月には、事業系ごみ資源化情報発信サイトとして専用ホームページを開設いたしました。これを使って古紙回収事業者と小規模事業者を結びつけるマッチングサービスを提供しているほか、動画での優良事業所の紹介なども行っております。また、紙おむつのリサイクルを進めるための実証実験も行っております。これは介護福祉施設など使用済み紙おむつが発生する事業所を対象に聞き取り調査、排出状況調査などを実施し、さらに、福岡県と共同で、回収した紙おむつを大牟田市のリサイクル施設に搬入して、パルプの回収状況等を調査するものです。

次に、産業廃棄物の処理状況についてご説明します。福岡市には焼却施設 1 施設、安定型最終処分場 5 施設、管理型最終処分場 1 施設があり、これらの施設に対しては、周辺環境への影響を監視するため、排気ガス中のダイオキシン類濃度の調査や周辺井戸の水質調査等を定期的に行っています。市内で発生する産業廃棄物は平成 23 年度実績で 131 万トンで、福岡市の特性として約 4 分の 3 は瓦礫などの建設系廃棄物となっています。一方、市内における産業廃棄物の処理量は約 95 万トンで、このうち 89 万トンは破碎や脱水などの中間処理が行われ、6 万トンが埋立処分されています。また、中間処理を行った後は約 9 割が再生利用されています。

循環型社会システムの構築につきましては、以上でございます。

イ 温暖化対策の推進

●事務局（温暖化対策課長）

次に、温暖化対策を考えた福岡のまちづくりについて説明いたします。

まず、福岡市における温室効果ガス排出量の推移について、平成 16 年度から 23 年度まで示しております。23 年度の福岡市の総排出量は 786 万 1,000 トンで、16 年度と比較しまして 18%増加しております。19 年度をピークにその後年々減少傾向にありましたが、22 年度は猛暑・厳冬などにより前年度から約 2.4%増加しており、23 年度は 3・11 の大震災等の影響により、電力に伴う CO₂ 排出係数が 0.348 から 0.503 と約 40%以上増加したことが原因で、前年比 13.4%増加しております。

なお、グラフには表示しておりませんが、24 年度にはこの CO₂ の排出係数がさらに上昇し、0.599 程度になるとの報告がありますので、前提条件を同一とした場合にはさらに 20%の増加が見込まれております。

次に、現行の第三次福岡市地球温暖化対策地域推進計画において、最も CO₂ 排出量の多い、家庭、業務、自動車の 3 部門を重点部門として、平成 16 年度を基準年度とした数値目標を定めております。重点 3 部門の原単位による数値目標と達成状況でございますが、まず、家庭部門におきましては、世帯当たり 8%の削減の目標値に対しまして、平成 23 年度は 33.9%の増となっております。

次に、業務部門ですが、床面積当たり 14%削減の目標値に対して 29.1%の増となっております。平成 16 年度に対する両部門の増加原因といたしましては、22 年度までは事務機器等の O A 化や電

気製品の普及等が要因となっておりますが、23年度は大震災等の影響で電力に伴うCO₂の排出係数が大幅に増加したことが要因となっております。

次に、自動車部門ですが、1台当たり8%の削減の目標値に対して17.1%の減となっており、目標値を大きく上回っております。

次に、省エネ推進施策の実施状況について説明いたします。重点部門における実施状況でございますが、まず、市民向けの事業として地球温暖化防止展示会、ECOチャレンジ応援事業、緑のカーテン、これは平成19年度から市有施設で実施しておりますが、25年度は10月20日に第7回全国緑のカーテンフォーラムを福岡市で開催いたします。その他、電気自動車購入に対し100件の助成や、住宅用太陽光発電施設等に対しては平成26年度から再構築を行い、補助を実施してまいります。

次に、事業者に対する実施状況でございますけれども、平成23年度から事業所省エネ技術導入サポート事業を実施しております。これは省エネに関し専門知識を有する省エネ業者が、商業ビル等を活用した省エネ運転方法等の指導を行い、その結果、実際に光熱水費が削減できた場合には、その一定割合を省エネ専門業者に支払うものでございます。23年度は22件、24年度は19件の実績がございます。その他、市有施設——小中学校ですけれども、屋根貸しによる太陽光発電事業を25年度は6件予定しております。

次に、事業者としての市役所の取組みでございますけれども、市庁舎等におきましては、今夏は10%以上の削減目標を設け、冷房温度を28度に設定するほか、電灯の部分消灯、クールビズ等の早期実施など、市民業者に率先して全庁的に実施しております。また、庁用自動車として電気自動車を10台導入しているほか、一般庁用車におきましても低公害車の導入率が80%以上となっております。

市有施設照明改修事業におきましては、平成28年度までに約1万3,000個の電球をLED電球へと取り替える予定としております。10年間で約1億6,000万円の削減効果を見込んでおります。

次に、リース方式による直管型LED照明の購入でございますが、これは市有施設を対象に平成25年度から3カ年で、電気消費量の多い旧型蛍光灯約6万本をリース方式によりLEDへと交換してまいります。

次に、市有施設への率先導入についてですが、太陽光発電を公民館、小中学校等へ設置するほか、メガソーラー、風力発電、バイオマス発電など158の市有施設で導入しております。

次に、創エネ推進施策の実施状況でございますが、平成24年度は西部(中田)埋立場にメガソーラーを導入し、25年度は東部武節ヶ浦埋立場に1メガワットの大規模太陽光発電の設置を予定しております。この事業は太陽光発電の売電収入でリース料を支払う15年のリース方式を採用しております。

次に、自律分散型エネルギー社会の構築に向けてでございます。

平成24年度末には福岡市環境・エネルギー戦略有識者会議からの提言書が市長に提出され、これを受けて25年度は政策の方向性や数値目標、具体的な取組みを示す戦略を策定してまいります。

最後に、スマートコミュニティの形成でございます。アイランドシティスマートコミュニティ創造事業でスマートマンションの整備等を促進し、地域でエネルギーを融通し合うなど、需給調整シ

システムの構築を支援してまいります。

以上でございます。

ウ 自然環境の保全

●事務局（環境調整課長）

続きまして、取組 3，自然とのふれあいと生物多様性の保全について説明させていただきます。

生物多様性ふくおか戦略につきましては、策定が平成 24 年 5 月となっております。100 年後の将来像といたしましては、命をつなぐ未来都市ふくおか。そして、当初 10 年間の基本的な方向性としたしまして、生物多様性に関する認識の社会への浸透、そして、多様な主体との連携を図りながら、生物多様性の保全や、その恵みの持続的な利用を図ってまいります。

生物多様性保全のモデル事業といたしまして、平成 23 年から今津干潟におきまして、地域住民の活動を主体とした里海保全再生事業を行っております。平成 24 年度は写真右の上にありますように、カブトガニの幼生の生息場になっているところのカキを拾い上げ、堆肥化する活動を行っております。

続きまして、博多湾の環境保全についてでございますが、生物が生まれ育つ博多湾の実現を目指し、施策を講じております。毎年、貧酸素発生状況の調査を行ったり、生物の指標調査といたしまして、藻場、カブトガニの調査を実施しております。また、博多湾の物質循環を把握するための調査といたしまして、平成 24 年度は御笠川、那珂川、樋井川におきまして、平成 25 年度は多々良川、宇美川、室見川におきまして負荷量調査を実施しております。

このほか、生物多様性の保全と市民への啓発を兼ねた取組みといたしまして、クリーンパーク臨海に設置いたしましたビオトープにおきまして、市民参加による生物調査を行っております。さらに、平成 13 年から 14 年に環境局が設置いたしました 7 校の学校ビオトープの現状調査を行っているところでございます。

自然環境調査につきましては、福岡市の現状を把握し、諸施策への基礎資料とするということで市域全体の動植物の分布状況を調査しております。五つの分野に分け、毎年 1 分野ずつ 5 年周期で調査をしております。平成 24 年度は哺乳類、爬虫類、両生類の調査を行い、希少種 13 種、特定外来生物 1 種を含めた 44 種の生物を確認しております。今年度は植生と特定外来生物の調査を行ってまいります。

野鳥公園の整備につきましては、基本計画を策定するため、地域住民や N P O の関係団体の方と野鳥公園の全体イメージ及び必要な機能などについて対話する野鳥公園ラウンジカフェを開催しております。また、公園の管理運営につきましては、N P O などの市民活動や C S R などの民間活力を取り入れた斬新な公園管理運営の導入を検討してまいります。

続きまして、取組み 4，健康で安全・安心な環境の確保についてご説明させていただきます。まず、大気質の状況ですが、福岡市では 16 の測定局で大気質の常時監視を行っております。平成 24 年度は二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素など浮遊粒子状物質については環境基準を達成してお

りますが、光化学オキシダント及び微小粒子状物質につきましては越境大気汚染の影響を受け、環境基準を達成できていない状況でございます。

光化学オキシダントにつきましては、近年、九州全域で注意報が発令されるなど、越境大気汚染の影響と思われる現象が起きております。福岡市では平成 21 年、24 年に光化学オキシダント注意報を発令しております。

浮遊粒子状物質の経年変化につきましては、黄砂等の影響を受け高濃度になることがございますが、平成 24 年度は全ての局で環境基準を達成しております。年平均値の推移を見ますと、減少傾向にあり、福岡市で発生する浮遊粒子状物質は少なくなっているものと考えられます。

微小粒子状物質、いわゆる PM2.5 につきましては、直径 2.5 マイクロメートル以下のとても小さな粒子でございます。呼吸器疾患や循環器疾患との関連が指摘され、平成 21 年に環境基準が設定されております。全国的にも環境基準の達成率が低く、平成 24 年度も市内の全ての局で環境基準を超過しております。

PM2.5 の予測情報についてでございますが、黄砂の予測と同様に 2 段階で情報を提供しております。予測値が環境基準の 1 立方メートル当たり 35 マイクログラムを超過すると予測される場合は、呼吸器疾患などのある方に対して情報提供を行い、また、国の暫定指針である 70 マイクログラムを超えると予測される場合は、全ての人に対し外出や激しい運動を減らすことを呼びかけます。なお、これまでの測定結果によりますと、70 マイクログラムを超える日は年に 2 日程度、35 マイクログラムを超える日は年に 40 日程度でございます。

続きまして、水質の状況についてでございます。河川の水質につきましては、市内 14 河川 19 地点で毎月調査を実施しておりますが、下水道の整備が進んだことなどにより全ての調査地点で環境基準を達成いたしました。

博多湾の水質につきましては、湾奥の東部海域、真ん中の中部海域、入り口の西部海域、3 海域 8 環境基準点で毎月調査を実施しております。汚濁指標である COD につきましては、5 地点で環境基準を達成しております。また、窒素、リンの状況につきましては、海域ごとに基準が設定されておりますが、窒素、リンとも全ての海域で環境基準を達成しております。

続きまして、地下水の状況についてでございますが、全市的な状況を把握するため、図に示しますとおり 24 年度は 20 井戸について調査を実施しております。調査の結果、環境基準を超過した井戸が 1 井戸見つかりましたが、これらの井戸の周辺調査では基準を超えた井戸はございませんで、硝酸、亜硝酸の物質硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が基準を超えたのは施肥等の影響が残っていたものと考えられております。

続きまして、自動車騒音の状況についてでございます。幹線道路の沿道の住居等の環境基準の達成状況を面的に評価しています。外環状道路など新しい幹線道路が整備されたことから平成 23 年度は自動車騒音の監視計画を見直しまして、平成 24 年度より評価区間の総延長を 225.2 キロメートルから 391.9 キロメートルに増加させております。また、環境基準の達成率は、表に示しますように徐々に向上しており、平成 24 年度は昼夜とも環境基準を達成している住居等が 95.3% となっております。

ります。この主な要因は、低公害車の普及によるものと考えられます。

最後に、化学物質の状況ですが、一般大気中のダイオキシン類やベンゼン等の有害大気汚染物質については、環境基準指針値を満足している状況にあります。また、アスベストにつきましても、WHOのクライテリアに比べ低い値にあり、環境ホルモンについては魚類に対する予測無影響濃度以下という状況になっております。

エ 健康で安全・安心な環境の確保

●事務局（政策経営課長）

それでは、環境に配慮した行動を促すための共通基盤の整備についてご説明いたします。

環境配慮の促進のため、福岡市環境影響評価条例の改正を行いました。環境審議会におきましては、本市における環境影響評価制度のあり方について諮問を行い、検討をいただき答申を受けました。答申の内容を踏まえ、福岡市環境影響評価条例を改正しましたところでございます。改正した条例及び施行規則は平成 25 年 4 月 1 日に配慮書の手続を除く一部を施行しており、さらに 10 月 1 日、明日でございますが、全面施行いたします。

改正のポイントといたしましては、事業計画の早期段階から環境配慮を検討する配慮書の手続の新設、市民等への便益を図り、環境の保全からの意見が広く提示されるよう環境影響評価図書の電子縦覧の義務化、市民等からの意見聴取の機会を充実する公聴会の開催の規定の追加、風力発電所及び土地の改変を伴う太陽光発電所について発電所の対象要件の見直しなど、答申の内容を踏まえたものといたしております。

改正した条例に基づく適切な環境影響評価が実施されることにより、環境配慮の促進を図ります。

次に、環境教育や市民啓発について説明いたします。

福岡市では一人一人の環境に配慮した活動がしっかりと定着するようライフステージや生活場面に応じ、あらゆる世代を対象にきめ細かく環境教育や啓発、支援を行っております。特に、子供に向けた取組みとして、わくわくエコ教室を実施しており、環境分野の専門家が保育園、幼稚園等に出向き、テーマそして地域に合ったプログラムで出前講座や自然観察会を実施しています。

次に、若者に向けた取組みといたしまして、環境啓発 U-30（アンダーサーティ）事業を実施しております。平成 24 年度は環境活動発表会を開催し、ネットワークづくりを行いました。

平成 19 年度に創設された環境行動賞につきましては、昨年度は大賞はございませんでしたが、最優秀賞 4 件、優秀賞 11 件、特別賞 1 件、奨励賞 69 件を表彰いたしました。今回から表彰式開催時期を 11 月から 6 月に変更するため、平成 26 年度に第 7 回表彰式を開催する予定でございます。

また、市民団体や NPO などが主体的に行う環境活動を支援するエコ発する事業は、平成 17 年度から実施しており、平成 24 年度は 22 団体に対し助成を行いました。

環境フェスティバルふくおかは、平成 15 年度から数えて今回で 11 回目でございます。今年は市役所西側ふれあい広場に常設ステージが整備され、また、芝生広場の拡張もされたことから、ステージ等を有効に活用した、さらなる効果的な環境に配慮したイベントとして PR したいと考えており

ます。10月19日、20日の2日間に開催予定でございます。

また、本市では、ご覧のように地球の環境保全活動を担う人材育成のための講座も実施しております。また、本市の環境教育・学習施設としまして、保健環境研究所1階に体験型学習施設として「まもる一む福岡」を設置しております。小学生を対象に実験をしながら楽しく学べる「エコKid'sスクール」の開催や気候変動、生物多様性などに関する情報提供を行っています。

福岡方式をはじめ、福岡の環境技術は廃棄物処理問題が急増する世界各国から注目されております。福岡市はハビタット福岡本部やJICAなどの国際機関と連携しながら、アジア太平洋地域を対象とした研修生、行政官の見学者受け入れや本市環境局職員を派遣しての現地での技術指導を行うなど、アジア太平洋諸国を中心に福岡方式の技術移転を行っています。特に、この福岡方式については、国連のクリーン開発メカニズム(CDM)理事会において、既存埋立地に本方式を導入することで発生を抑制できたメタンガスの量を温室効果ガスの排出権取引の対象とすることができる新たな手法として認定されました。今後は、この福岡方式をはじめ、福岡のさまざまな環境技術を世界に発信し、環境分野における国際貢献を進めてまいりたいと考えております。

最後に、環境と保健に関する試験検査、調査研究等についてご説明いたします。

保健環境研究所では、ダイオキシン類などの有害化学物質等の検査や廃棄物の資源化に関する調査研究を行っています。また、インフルエンザなど感染症のウイルス検査や食中毒が発生した際の細菌検査、食品添加物などの検査を行っています。

福岡市の環境政策につきまして、24年度の取組みを中心にご報告いたしました。

以上でございます。

○会長

それでは、この1年間の福岡市の環境に係る施策について、駆け足でしたが、ご報告をいただきました。どこからでも結構です。ご質問、ご意見がございましたら、お出しいただきたいと思います。いかがでございましょうか。

委員、どうぞ。

○委員

47ページ、福岡市におけるPM2.5の情報提供というところなんですけど、また昨日ぐらいからですか、中国での大気汚染というのが非常に問題になっておりまして、大気の関係でこちらに来るのかどうかというのはちょっとわかりませんが、このことは1年ぐらい前から結構言われて、私どもが市民として、どこでいち早く情報を得たらいいのかというのがわからないんですよ。新聞等にはよく載っていたりはします。ですけども、予測というところで、予報といいますか、どの段階でわかるのかあれですけども、大体大気の関係でわかるのかなと思いますけれども、例えば前日に明日は出そうですからマスクを着用してくださいとか、外出はなるべく控えてくださいとか、そういう情報をどこでどう入手したらいいのか。ホームページを1回1回見るのか、どうしたらいいのかというのがちょっとわからないので、なかなか福岡としては防ぎようがないところなので、今後まだまだ続くと思われまますから、その辺のことを教えていただきたいと思います。

○会長

どうぞ。

●事務局（環境保全課長）

環境保全課長でございます。先ほどのPM2.5の件についてご説明したいと思います。

現在のところ、福岡市ではPM2.5の予測情報については、環境基準を超えると予測されたときにお出ししていますが、当日の朝しか予測ができておりません。黄砂影響検討委員会を設けまして、専門の先生でいろいろご検討していただきましたが、まだ前日からの予測というのができない状況で、当日の朝6時のデータで予測しておりまして、6時半から7時くらいの間には今日は環境基準を超えるかどうかという予測情報をお出ししております。

これにつきましては、一番的確に情報入手できるのは、防災メールへの登録をしていただきますと、予測が出た日の朝にメールが参ります。基準超過の予測がされていないときにはメールは参りませんが、超過の予測が出たときには確実に参りますので、そういった手法で利用していただければと思っております。よろしくお願ひします。

○会長

よろしいですか。

○委員

ということは、皆さんに防災メールへ登録してもらわないといけないですね。もっとそのPRをしていただきたいと思ひます。

○会長

この問題に関しては、もうちょっと正確に情報を流す必要もあると思ひれます。環境基準を超えたら、何かすぐ健康上の深刻な影響が生じるというような誤解があるようです。環境基準は行政の努力目標として「維持されることが望ましい基準」（環境基本法16条1項）として定められるものです。それで、わざわざ国では法令等に基づかない注意喚起のための「暫定的な指針となる値」として、日平均値 $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ という数字をあげています。環境基準の $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ という数字は、長期的な曝露によって死亡率が上がるという国際的な研究データがあるということから、この基準を決めたのであって、短期的な曝露による健康影響を問題にしている基準ではないわけです。さらに一日平均値を超えると考えられる一時間平均値は、 $85\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度と推測されることも公表されているのですが、こういう情報がきちんと市民に知らされていく必要があると思ひます。そのあたりが知らされることなく、 $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えたら直ちに健康上危ないかのような誤解を与えないようにしなければいけないと思ひます。ですから、今日は環境基準を超えますということが毎朝流れても、それはよっぽど体の調子が悪いような方はお気をつけくださいと言っているだけであって、全ての人がマスクをつけて歩かなければならないような話ではないし、ましてや中国の大都市での状況とはまるっきり違ひう。

福岡市で日平均値が $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日が年間に4日とおっしゃいましたか。ああ、2日ですか。それくらいを超えたときには外出時に少し気をつけたほうがいいですよという話であるという、そ

の情報を流すことがもっと大事なことではないのか。あまりにもある時期に大きく騒ぎ過ぎてしまって、相当誤解がまだ残っている気がします。全国的にはかなり誤解が解けてきたと思われます。こういう国の情報を市民に直接見ていただくということがなかなか難しいのなら、市もちゃんとそういう情報を流す努力をしないといけないと思います。

福岡市で、関心をお持ちの方は、今日は環境基準の $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えるかもしれないことについての予測は今事務局からご説明があったような形でアクセスができるということです。ただ、どういふ人がその情報にアクセスする必要があるのかをあわせて流しておかないといけない。環境基準を超えていることが問題だと言うのであれば、光化学オキシダントは全国的にみても環境基準達成率は一般大気環境測定局でも 0.5%、自動車排出ガス測定局では 0% ですが、誰も騒がない。同じ環境基準なのに、ある環境基準がめちゃくちゃ超えていても誰も問題にしない、ある環境基準だけは大きく騒がれるというのは少しおかしいのではないかと思われませんか。

○委員

大げさに言われては困るということですね。

○会長

ええ、困るんです。そういうことを言われては困るし、環境基準というものはどういうものであるかということが市民にわかるようにすることが行政としての一番の責任だと考えます。

どうぞ。

○委員

ごみの問題です。資料 1 の 8 ページのごみ処理量の推移ですが、私が誤解していたのかなと思いますけれども、この処理量の年次計画で 27 年度第 1 次中間目標は達成したと理解をしたつもりなんです。先ほどの資料と説明では、24 年度のごみ処理量の推移は、この「ふくおかの環境」の 262 ページと同じ数字なんだと思いますが……。ああ、数字が違いますね。56 万 2,899 トンで、27 年度の第 1 次中間目標は 52 万 1,000 トンですが、数字はどのように把握されているのかなと。家庭ごみが 28 万 7,206 トン、事業系ごみ処理量の 27 万 5,693 トンが今日配られた資料では 27 万 8,159 トンと。数字が先ほど修正がされたやに思いますけれども。

お尋ねしたいのは、27 年度の中間目標達成はどうかということと、事業系ごみが少し増えつつあるのかなということと、ごみのリサイクル率の推移を見ますと、家庭系ごみよりも事業系ごみのリサイクル率が上がっているようですが、この推移でいくと 27 年度はどうか。あと 1.6% ということになるんですが、この辺の推移を教えてくださいということと、事業系ごみのリサイクル量が順調に進んでいるのか課題があるのか、現在取り組まれている事業の内容と、それを推進すれば第 1 次、第 2 次の間目標が達成できるのかどうか、取組みの事業の内容なども含めて説明していただくと助かります。

○会長

わかりました。これは次に循環部会についての報告がありますので、そこで今のご質問についてまとめて説明していただけますか。よろしいですか。

●事務局（循環型社会計画課長）

数字のところだけ、すみません。

○会長

数字は資料2のほうが正しいのですね。数字の修正、さっきスライドがよく見えなかったので、ご説明ください。

●事務局（循環型社会計画課長）

申し訳ありません。ごみ処理量の数字でございますけれども、お手元の資料1が誤っておりまして、後ほど説明いたします循環型社会構築部会の資料に正しい数字を記載しております。正しい数字でございますけれども、24年度のごみ処理量総量が56万2,899トンでございます。その内訳ですけれども、事業系ごみ27万5,693トンというのが正しい数字です。大変申し訳ございませんでした。

○会長

後でまた同じ議題がございますので、そこでまとめて説明をいただきます。

ほかにご質問ございますか。委員、どうぞ。

○委員

23ページの温暖化対策に関する実績の数字が出ているところがありまして、家庭部門、それから業務部門で二酸化炭素の排出量目標に対して増加という実績が出ています。先ほどもご説明にありましたとおり、実際2010年度から2011年度にかけて九州電力の1kWh当たりのCO₂排出原単位が45%ぐらい上がっているということが背景にあると思うんですけれども、大きな増加の数値の背景として、CO₂原単位が上がった分と、省エネとか節電による低減効果、それから再生可能エネルギーなどの導入による効果等、大きくいくつかのカテゴリーでの内容について、大体どういう傾向というふうに分析されているかを教えていただければと思います。いかがでしょうか。

○会長

はい。

●事務局（温暖化対策課長）

温暖化対策課長でございます。この分が確かに23年度は、先ほど申されましたように、九電のCO₂の排出係数が約45%上がっております。その分と省エネと、あと再エネの効果と。細かな分析は今やっておるんですけれども、少なくとも省エネにつきましては、九電から発表がありまして、24年は約10%の省エネ効果があったという数字が出ております。それを加味しても約45%増加があつておると。省エネにつきましては今試算中でございますので、これに対する影響力については別の機会にまたご報告したいと考えております。

○会長

原単位が一番よかった時期を基準にして、その原単位を固定して計算した数字があるはずですが、どうでしょうか。今までは、それをあわせて公表していました。原単位固定で数字を示せば、実質的に市民の努力がちゃんと出てくるわけです。原単位が動くことは市民一人ひとりの努力とは全く

関係ないことですからね。それをやらないと実態がわからなくなる。

●事務局（温暖化対策課長）

CO₂とといいますのは、このように排出係数で大きく年々変わってまいります。エネルギーの単位は普通ジュールを使うんですけども、このジュールという単位で、もし条件が同一とした場合のCO₂の排出量は一応考えておりまして、これについてはマイナスということですので、ジュールに対しては毎年毎年エネルギーの消費率につきましては、ほんの数%ですけれども下がっていることは事実でございます。

○会長

よろしいですか。

どうぞ、委員。

○委員

48 ページと 49 ページで、河川の水質ではBOD、河川の流れ込みは異常はないということですが、博多湾の水質になりますと、3 ポイントばかりCODが環境基準を超えている。これについてご説明をお願いいたします。

●事務局（環境調整課長）

環境調整課長でございます。河川につきましては、生活排水等汚濁自体が全部下水処理場のほうに行っておりますので、汚濁源がないということで環境基準を達成しております。ただ、博多湾につきましては下水処理場からの負荷などにより環境基準を達成しておりません水が流入するということが、負荷自体は従来と同じようにございます。そして、今回沿岸域で3 地点環境基準を超えておりますけれども、そういった流域は、流入する場所の近くなりで環境基準を達成できていないという状況にあるのかと思います。東部海域につきましては、環境基準値が3mg/L（ミリグラムパーリットル）という形で設定されておりまして、湾奥でございますが、こちらについては環境基準を達成している。中部地域と西部海域につきましては、環境基準値が2mg/L という形で設定されておりますので、若干環境基準を超えるという状況になっております。

以上でございます。

○委員

それで、道路下水道局では高度処理という処理をされて、そして、博多湾に水を出していて、その影響で窒素、リンが全くなくなっているような状況だと言われているんですが、その高度処理をしながらでも、まだ水質が悪いということであれば、道路下水道局に対して環境局としては何か申し入れをしているのかどうか。

●事務局（環境調整課長）

50 ページに窒素とリンの濃度の変化を示しております。窒素については環境基準をぎりぎり達成しているという状況でございます。リンについてはかなり下のレベルで達成しています。リンについては高度処理がある程度充実しておりまして削減されております。窒素についてはまだ一部高度処理を導入しているという状況の中で、窒素とリンのバランス等が少し崩れております。いずれに

しても下水の高度処理を導入しているということで、窒素、リンの基準は達成しているのですが、季節的に細かく見ていきますと、夏場、赤潮等の発生でCODが高くなるという状況がございます。ノリ、ワカメ等については冬場の窒素、リンの供給の状況等がございますので、そこら辺は、夏に赤潮が発生しないように、なおかつ冬場、漁業生産に支障がないようにという形で下水の放流ができないかといったことについて、道路下水道局と今協議をしながら試験的にやっというと考えております。

○会長

よろしいですか。

博多湾のW-7とC-4とC-10、ぎりぎりという感じですね。これは底質との関係ではあまり問題はないのですか。

●事務局（環境調整課長）

底質も確かに悪いので、そういった影響というのも大きいのかなというふうには考えております。

○会長

少し底質を見ないといけないのではないですか。瀬戸内海では最近特に指摘されるようになっていくのですが、流れ込みのほうの水質がよくなっても全然海域でのCODの数字がよくなるのは、どうも底質のほうに原因があるのではないかと聞かされますが、博多湾はどうでしょうか。委員、お教えいただけませんか。

○委員

博多湾に対する負荷は河川下水処理水の負荷もあるんですけども、会長がおっしゃられたように底質から戻ってくる分のほうが、陸域からの負荷より大きいことが時々あります。そのために富栄養化する可能性があります。もう1点は、この沿岸域のほうがピンク色になっているのは、外海との水の交換が少し悪い、ほかに対して少ないので、それが高くなるということもあるかと思えます。

○会長

ありがとうございました。博多湾は水深もあまり深くない。水深が浅くて、底に大分長い間たまっている。さらに交換が悪いのでということもあるので、必ずしも流れ込みの影響ばかりでもないようですが、前からわかっているのは、降雨量が多いと川から堆積していた汚染負荷物が流れ出て、それですぐに海域のCODが上がるということが指摘されておりました。いろいろあるのではないかとおもわれますが、全体としては23年度と24年度で大きく数字が違うのは、天候の影響があるのではないかと思います。この辺は細かく委員会で検討しておられるはずですから、そういうことをちゃんとこういうところで報告していただくといいと思います。ありがとうございました。

ほかにご質問ございませんでしょうか。どうぞ、委員。

○委員

専門じゃないんですけど、市民の立場から気になったんで質問させていただきます。生物の分野なんですけれども、何年か前から有害外来昆虫というか、クモの問題でアイランドシティで騒が

れたと思うんですけども、その後についてと、最近NHKで、クモだけじゃなくて、有害な蜂ですか、その問題が出ていたんで、ちょっと気になったんですけど、その辺についてどうなっているのかということをお聞きしたいと思います。

○会長

クモだけじゃなくて蜂も怖い。対馬にはすでに外来の蜂が入ってきたと報道されています。

●事務局（環境調整課長）

特定外来生物としてセアカゴケグモがコンテナにくっついて入ってきたりとか、いろいろな人間の活動に伴って新しい生物が入り、生態系や農業被害、人への直接的な影響ということが懸念されるような状態に最近なりつつあります。そういう中で実際にどう対応しているのかというご質問かと思いますが、私どもとしましては、そういった外来生物等についての注意を市民の方に呼びかけるということ、そして、農業被害などが生じてくるようであれば、そこを管理しているところが駆除していくという仕組みがございますので、そういった対応をしていきたいと考えております。

○会長

ご質問はそういうことではなくて、現実にもう対馬ぐらいまで変な外来種の蜂が増えてきているらしいので、福岡では大丈夫ですかということなんです。

○委員

NHKであっていたけど、九大の先生が対馬まで調べに行かれて、そして、それがもう間もなく博多に上陸してくるという報道がNHKでされたんですよ。これをあなたたちがどういうふう把握しておられるかということです。

●事務局（環境調整課長）

これまで昆虫に対する調査もしております、外来生物等についても同じように把握するようにしておりますけれども、現在のところまだ福岡市におきましては、生息が確認される状況にはないと考えております。

○会長

監視体制をしっかりとつくることを求めるという意見だと思うので、検討してください。それから、九大キャンパスではアライグマが出ています。本当に困ってます。

●事務局（環境調整課長）

アライグマについては、また来年も調査を実施するようにしております。

○会長

かわいいように見えるんだけど、意外と乱暴で、病原菌も持っているらしい。九大キャンパスだけというより、周辺の地域に生息しているのでしょうか。九大の野生動物監視カメラに映るものですか、キャンパスにいますよという報告がくる。

ほかにご質問、ご意見がございますか。よろしゅうございますか。

特にございませんようでしたら、この報告についてはご了承いただいたということにいたします。

(2) 環境審議会循環型社会構築部会報告（平成 25 年 9 月 24 日開催）

○会長

それでは続いて、新循環のまち・ふくおか基本計画の進行管理についてということでございます。これについては、部会で検討をいただきましたので、まず部会の報告をいただいた後、事務局から説明いただきます。本日は循環型社会構築部会長がご欠席でございますので、職務代理者にご報告いただきます。

○委員

本日は部会長がお休みですので、私が代わりにご報告申し上げます。

今月の 24 日に部会が開かれまして、事務局から新循環のまち・ふくおか基本計画がどういうふうに進捗されているのか、進捗状況をご説明いただきました。細かいことは事務局のほうからご報告いただきますけれども、私から 3 点ほど印象に残ったこと、気になったことを申し上げたいと思います。

一つ目は、先ほどもご質問がありました、家庭ごみのごみ処理量についてです。これまで福岡市は、人口が増えているわりにはごみが増えていないということで、非常に優等生だったわけなんですけれども、実は 24 年度は若干ですけれども増えております。人口がそれこそ 1% 増えていて、ごみも増えるというのは当たり前といえば当たり前のようなんですけれども、これまで減ってきている中で、これがこれからどういう状況に推移していくのかを慎重に見守らなければいけないと感じております。

2 番目ですけれども、皆さんご存じのようが 3R を言われておりますが、どちらかというともう 3R から 2R というところで、その中でもリデュースに非常に力を入れていかなくてはいけないのではないかとされているんですが、ある委員の方からリデュースという言葉が非常に伝わりにくいというか、わかりにくいということで、これが一番基本になる、とにかくごみを持ち込まないということを推進していかねばいけないんだけれども、この認知度がほかの 2R に比べて低いことをどう考えていったらいいのか、リデュースの認識をもう少し高めていかねばいけないのではないかとということが出ました。

3 番目ですけれども、レジ袋については随分とスーパーでも買い物袋を持ってくる人が増えてまして、レジ袋をもらわなくなっているんですけれども、実はデータを見てみますと、レジ袋削減協定に加わっているところでレジ袋をもらわない、買い物袋を持っていく人の割合が増えているということで、実はそこに入っていないコンビニを今後どういうふうにしていくのかということ。コンビニは、福岡ではものすごく増えておりますので、コンビニでレジ袋をもらわないということを推進していかねばリデュースについても進まないのではないかとことが出ておりました。

私の気がつきましたところ、皆さんのご意見をまとめたところではその 3 点ですけれども、細かいことにつきましては、事務局のほうからご報告いたします。

●事務局（循環型社会計画課長）

それでは、事務局から補足して説明をさせていただきます。

資料の2から2-3までをお願いいたします。

1枚目を飛ばしまして、まず資料の2-1は、平成24年度に実施した事業の実績、資料の2-2は24年度の成果について、数値目標と取組指標を用いて分析評価したもの。資料2-3は福岡市の今後の取組みとなっております。

循環型社会構築部会では、これらの資料を用いてご審議いただきました。その内容をまとめたものが一番上の資料2となっております。

それでは、恐れ入りますが資料2と2-2のごみ処理量のグラフをあわせてごらんください。平成24年度のごみ処理量は約56万3,000トンとなっており、基準年次の平成21年度と比較しますと約1万5,000トンの減ですが、前年度との比較ではほぼ横ばいとなっております。このうち家庭ごみについては、棒グラフの青色の部分ですが、平成22年度までは一貫して減少傾向を示しておりましたが、平成23年度から微増となっております。その理由ですが、5ページに市民1人1日当たりの家庭ごみ処理量をお示ししております。ご覧のとおり、市民1人1日当たりのごみ処理量、原単位と申しますけれども、こちらは平成22年度から横ばいがございますけれども、これに対して人口は毎年1%程度伸びているということで、全体のごみ処理量としては増加したと考えられます。

恐れ入りますが、資料2にお戻りください。このようなことから平成24年度の実績の評価としましては、(1)に記載のとおり、家庭ごみについては市民1人1日当たりのごみ量は平成22年度以降横ばいであるが、人口が毎年1%伸びていることにより、ごみ量が増加している。計画の目標を達成するためには原単位を下げるのが不可欠であり、2R（リデュース、リユース）の啓発強化や資源回収の強化を進める必要がある。また、新たな資源化ルートの開拓、資源化に誘導する施策の実施が必要であるとなっております。

次に、事業系ごみでございますが、資料2-2のごみ処理量のグラフをご覧いただきますと、棒グラフの黄色の部分の事業系ごみについては平成23年度までは減少していましたが、平成24年度は横ばいとなっております。これは建設業を中心に業績回復傾向が見られており、市内のオフィス空室率の低下、有効求人倍率の上昇などから、景気が回復傾向にあり、ごみ量にも影響を及ぼしていると考えられます。

また、事業系ごみの減量、リサイクルを進める上での大きな課題として施設整備の問題がございます。恐れ入りますが、資料2-3の9ページをお開きください。

施設整備に対する支援の検討ですが、現在市内には食品リサイクル施設が1社で、処理能力が年間3,000トンしかなく、食品リサイクルの受け皿が確保できておりません。計画目標を達成するためには1万8,000トンまで能力アップが必要となります。また、10ページには紙おむつのリサイクルについて記載していますが、こちらも市内にリサイクル施設がなく、これらの処理施設を市内に整備することが喫緊の課題となっております。

恐れ入りますが、資料2にお戻りください。このようなことから、平成24年度実績の評価としましては(2)に記載のとおり、事業系ごみについては、景気が回復傾向にあることから、今後増加に転じる可能性があるため、より一層の啓発を行うとともに情報発信を強化する必要があります。また、

市内に食品残渣、紙おむつ等の資源化施設を誘致するなどして、資源化に必要な環境整備を行っていく必要があるとなっております。

続きまして、「2 今後の取組みに対する意見等」についてご説明します。

ここには委員の皆様からいただいたご意見、ご助言のうち主なものを記載しております。

まず、1 点目は啓発の進め方についてですが、3Rの行動を促すとき、3Rの重要性ばかり強調しがちですが、市民・事業者にとっては、経済的インセンティブがあったり、利便性が高いということのほうがわかりやすく、行動につながりやすいので、そういう観点で啓発強化や情報発信を行うようにということでした。ほかにも、先ほどご紹介ありましたけれども、リデュースという言葉はリサイクルやリユースと異なり、なじみが薄いので言葉から認知してもらえるような工夫が必要であることや、市民の生活感覚に根ざしたわかりやすい言葉を使うべきだというご意見がありました。

2 点目は、新しい資源化の品目として廃食用油についてのご意見ですが、家庭で揚げ物など油を使う機会が減っており、どのくらい油が出るのか発生量調査を行い、また、既に取り組んでいる先進地でどんな課題があるのかを把握して実効性のある手法を採用することに加え、油を使い切ることやエコクッキングなど、ごみを出さない取組みについても啓発を行うようにということでした。

3 点目は、レジ袋削減についてですが、この取組みをさらに進めるには、レジ袋をもらう人がなぜレジ袋が必要なのか、例えば1度の買い物で大量に購入するので通常のマイバッグでは入りきれないなど、レジ袋が必要な理由を調べてみることや、コンビニを巻き込んだマイバッグ運動の取組みを強化すべきであるということでした。

4 点目は資源回収の強化についてですが、資源化に誘導する施策の実施だけではなく、燃えないごみからの資源物持ち去り対策にも取り組み、排出された資源物を確実に回収し資源化することが肝要で、資源物持ち去り対策については他都市の対策状況についても十分調査研究するようにということでした。

最後に5 点目ですが、資源化施設の整備に当たっては、用地の確保が難しいことが考えられるので、市による立地支援なども検討するようにということでした。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○会長

先ほど委員から、27年度目標との関係ではどう評価をしているかというご質問がありました。その点はいかがですか。

○委員

ちょっと補足をさせてください。資料2-2の数値目標①ごみ処理量というのは、計画見直しをした数値ではないかと改めて認識して、違っておれば訂正をしていただきたいんですが、今日配られています会議資料「新循環のまち・ふくおか基本計画」の3ページに、ごみ処理の推移(資料編)が出ています。ごみ処理量と人口の推移で平成21年度57万8,395トン、平成22年度の間目標65万トン、これはそこに書いてあるように前倒しで目標を達成したという認識で、そういう延長線上の話先ほどさせていただきました。先ほどの課長さんからいろいろ説明がありましたが、まず1

点は、この27年度の52万1,000トンの目標値の設定について、その背景と判断、計画数値を定めた要因、これを説明していただかないと、先ほど二つ目のお尋ねとして景気は回復期にあるという中で、ごみの減量値というか、増加傾向は避けられないというお話ですけど、それは計画を立てるときの予測の範疇であったのか、予測していなかったのか、その辺の微妙な問題について、踏み込んだ考え方を示していただきたい。

そうしないと、福岡市の将来計画というのは、経済の動向や人口の動向、それから福岡市のまちが今後、建築物も40年、50年、60年と都心部を中心に再整備というか再構築というか、そういうものが次々と投げかけられる中で、このごみ減量計画で対応できるのかどうかという根本が問われてくる要素が、先ほどの説明ではあるのではないかと思うんですよね。そうすると、この審議会で議論する土台、根拠をもう少し洗い直すというか、見直すというか、そういう方向で検討せんといかんのかなという気がします。

いろいろ言いましたけれど、これらの点について考え方を教えてください。

●事務局（循環型社会計画課長）

それでは、27年度のごみ処理量の数値につきまして、ちょっと整理をしたいと思います。先ほど委員もおっしゃいましたように、目標を達成した27年度の数値といいますのは、この新循環のまち・ふくおか基本計画ができる前の第3次の計画の目標を7年前倒しで達成をいたしまして、その影響でこの新循環のまち・ふくおか基本計画というのを新しくつくったという経緯がございます。ごみ処理量の将来推計をそのときどのようにしたかという、作業を平成20年から22年ぐらいにやっているわけなんですけど、過去の実績傾向から推計した1日1人当たりの排出量を当時の予測人口に乗じて算出したものを基礎としまして、それに対して、その当時のごみ減量施策をそのまま続けたらどうなるか、さらに新しい施策を加えたらどうなるかという推計を加えて現在の第4次計画ができておまして、27年度の目標値についてもそのような内容でできております。

当時を振り返りますと、当然、どちらかと言いますとデフレ傾向ということがあったかと思えます。それが現状では景気回復してきているという部分が異なりますし、人口が当時の予測から大分乖離をしておまして、当時の予測では37年度で149万人くらいと思っておりましたところが、既に150万人に達しています。そういう意味では大分見直しを図る必要があるんですけども、この計画自体が24年度からスタートということでございまして、27年度を第1次中間目標年としておりますので、その時期を捉えて計画の見直しについて検討してまいりたいと考えております。

○会長

委員、よろしゅうございましょうか。

○委員

もうお尋ねはしませんけれども、今のお話からすると、27年度の数値目標は極めて厳しいのかなと。経済指数がどういうふうになるのか等々については、今のお話からは見えてこない。7年後にオリンピックがあるという、これは新たな要因でしようけれども、この計画で27年までの間の推移を見て云々とおっしゃったんですけども、私はもう少し踏み込んだ計画を立てる上で、経済、人

口などの福岡市のまちづくりの背景その他について、もう少し深めた研究をする必要があるのかなという問題提起だけしておきます。

○会長

ありがとうございました。最終的には、処理施設がオーバーフローするなんてことになったら困るわけです。そのことについてはあまり問題を感じてはいないと思いますけれども、目標を立てて取り組まなくてはいけなくて、ただ傍観するだけではだめだと。事務局も部会も決してそんなことを考えているわけではなくて、もっと積極的にリデュースに力を入れなければいけない、それについての取組みを考えなければいけないということも提言しているわけです。ですから、部会の中で出された様々なご意見を生かしながら、積極的に施策を進めてほしいということがあろうかと思えます。

委員のご指摘も、見直せということと同時に、これでは目標が達成できないじゃないか、そういう心配を君たちちゃんとしろよというご指摘だと思うわけです。ただ粛々とやっていますという回答ではだめですし、人口が増えましたからしょうがありませんでは言い訳にはなりませんから、ではそのためにどうする。増やさない。原単位を下げるためにどうしたらいいかということをしっかりお答えいただかなくてはいけないわけです。どう考えたって、リデュースが一番効いてくるだろうというご説明です。

しかし、そうは言うものの、リデュースというのは、実際に国も一番難しい課題と考えているわけですし、何をやったらいいかということになると、なかなかまい知恵が湧いてこないわけです。例えば、それこそエコクッキングなんて言葉を、もっとまともに捉えてほしいわけです。これは単なる料理の仕方を考えるだけではない。例えば、少人数の家族なら、キャベツを買うときは4分の1切れのキャベツを買ってきましょうというような話なんです。最近、スーパーに4分の1切れが売られていることを発見して感動したのです。4分の1を買ってくれば全部食べ切って捨てることのないわけですが、そういうことを含めてエコクッキングという言葉で言おうとしているわけですから、こういう言葉をキーワードとして、具体的にこういうふうにやればごみは減りますという啓発が必要でしょう。

また、リデュースとは、ごみを持ち込まないなどというよりも、ごみをつくらないということでしょう。今までは持ち込まないことをリデュースと言う傾向が強かったから、過剰包装をやめればそれがリデュースなどと言ってきましたけれども、そうではなくて、自分の家の冷蔵庫を堆肥製造蔵にすることをやめれば、少なくとも当面はごみは減るわけです。そういうことなのだとということがわかるように、きちんと施策を展開しなさいというのが、多分部会での多くの委員からのご指摘だったと思いますから、そのあたりをぜひ事務局は理解をしていただきたいと思えます。

ほかに、この2番の議題に関してご指摘いただくことはございますでしょうか。どうぞ、委員。

○委員

資料2の2番の④、資源回収の強化に当たってですけれども、これは今後、資源物持ち去りをしてはいけないという条例をつくるように聞いております。資源化するから持ち去ってはいけないと

いうのか、市の財源にするから持ち去ってはいけないというのか、条例の目的はどっちですか。これを見ていると、資源化を推進するということですので、資源物は持ち去ってはいけませんということだろうと思うんですけども、資源化することを目的にすれば、持ち去った人たちも資源化するために持ち去っているんですよね。あれを売ってお金にして、買ったところは資源にしていく。目的は一緒ではないかと思うんです。そのあたりがなかなか難しい。市民が出したアルミ缶が市の持ち物であれば、市が回収をして、市の財源にしていくと。今はそのようにやっているんですけども、これが無主物である、誰のものでもないということであれば、持ち去られても泥棒にはならないということなんですよ。そのあたりの目的というか、資源化するというのが目的なのか、市の財源にするというのが目的なのか、このあたりをしっかりと仕分けをしなければ、条例をつくっても、穴のあいた条例になるのではないかという気がしますので、そのあたり一言お願いします。

○会長

ちょっとお待ちください。今の点については、次の議題とつながりますのでそこで取り上げさせていただきます。それ以外のことでご意見がございますか。委員どうぞ。

○委員

事業系ごみについてです。事業系の13業者は資源の分別がなされていない。まだリサイクルできるものが燃やされているということをよく言われます。そこで、一番最後に「整備については市による立地支援なども検討」と記載されていますが、その方が言われるのは、清掃工場でそういう設備をつくって、そこで分別すると数億円の資源が回収できますということを言われております。このことについて1点。

それから、ごみが減少して——多少は今増えているとおっしゃっていますけれども、不法投棄のごみがかなりあるんですが、この不法投棄のごみというのは、報告された数字の中にどのように出てきているのか教えてください。

それから、レジ袋の問題は、私もスーパーに買い物に行きますが、買い物袋を持っていくと2円引いてくれます。量がたくさんだろうが少なからうが2円引いてくれます。私の目の前の奥様は、かご3杯で袋を5枚ぐらいもらわれても2円です。私は少しだけでも、買い物袋を持っていったから2円です。ということで、袋が要る人からは10円ぐらい取ると。持って来ていたら2円でもいいんだけど、その辺がなされていない。それから、デパートでは、まだ買い物袋を無限に出されます。私が買い物袋を持っていても、レジ袋に入れてくれます。その辺がまだ徹底していないようです。

以上3点申し上げます。

○会長

それでは、今の3点を手短かに。

●事務局（収集管理課長）

13許可業者がリサイクルできるような取組みということでございますけれども、現在、13許可業者が共同して、紙などを収集したものの中から分別して、それをリサイクルしようという計画に取

り組んでおられます。まだ今は計画の段階ですから、実際それを事業化しようとするには若干の時間がかかるかと思いますが、現在そういう取組みに向けて進んでおります。

●事務局（循環型社会計画課長）

それでは、不法投棄ごみの量でございますけれども、お手元の資料のごみ処理量は、事業系ごみと家庭系のごみということですので、不法投棄のごみは公共系のごみということで別に、例えば道路清掃のごみとか河川清掃のごみとか、そういう形のカテゴリーに入れております。ここには入ってまいりません。よろしいでしょうか。

○委員

入ってなければ、どのぐらい量があるのか教えてください。

●事務局（循環型社会計画課長）

24年度のごみ処理の実績で申しますと、不法投棄のごみが87トンでございます。

それから、買い物袋の件でございますけれども、私どもはマイバッグの持参運動というのをやっております、事業者と市民の会と行政と三者で一緒にやっていっているところですが、そういう中で、事業者の方にも呼びかけをするというのもございますけれども、あとは市民の方に呼びかけをしまして、ぜひ「要りません」という一言を言っていただくという運動をさらに進めてまいりたいと考えております。

○会長

他にございますでしょうか。それでは委員どうぞ。

○委員

二つあるんですけれども、一つはコメントで、二つ目が質問です。

一つは、人口が増えていって経済がどうだこうだかいうところが出てくる話は、最初の温室効果ガスの排出量が九電に依存するということとも関係してくるような気がするんですが。わかりやすくするような形で――世帯当たりがいいのか、人口当たりがいいのか、GDP当たりがいいのかわかりませんが、そういうような形の指標もあると見やすくなるのかなというのが一つのコメントです。

もう1点は、3R率の目標値が、多分どこかの一次の仮定のところで線形で増えていっているような仮説を持っているのではないかというふうに見える伸び方ですね。資料2-2の3ページあたりのところを見るとですけれども。これはどこまでいけるもので、どこまでいくべきものなんでしょうか。要は、最終的に8割までいくものなのか、5割ぐらいが適正もしくは現実的なところなのか。もし5割なんだったら、そろそろ頭打ちとすべきでしょうし、その辺がどうなのかなというところをお願いします。

○会長

質問は今の1点だけですか。この点について今即答できなければ、またにしてください。

●事務局（循環型社会計画課長）

3R率については、今回の基本計画から取組指標ということで取り組んでおまして、これではご

み発生量の削減のために、発生量自体を抑えるという形の考え方による 3R 率ということでございまして、どのくらいまで下げるべきかとか、下げられるのかということについては、まだ実績がございませんので……。

○会長

要するに、理論的にきちんとシミュレーションをやって根拠があるわけではなくて、とりあえず目標をつくっただけですから、どこまで下げるべきかということは、やってみなければわからない。そう正直に答える以外ないのではないですか。しかるべき、きちんとした学問的な根拠があってこういうことをやっているわけではないでしょう。指標としてこういう見せ方をしましょうと言っているだけです。それがどこまでいったら頭打ちになるかというのはやってみなければわからない。それよりもむしろ、本当にきちんと研究している人が、こういうものの理論値でどこら辺が上限だという予測をしてくれればありがたいなと思うのですけれども。おそらく行政にその数字を前もって求めることはまず無理でしょう。

それでは、もう一つ、先ほど委員からご発言がございましたが、本日追加の議題で「持ち去り禁止の条例の検討について」ご報告申し上げ、ご了承いただくということになっておりますので、それについてご説明をいただくことにいたします。

ただ今の報告に関してですが、部会でのこういうコメント、あるいは行政の事務局に対する提言を含めて取りまとめておりますが、総会としては循環型社会構築部会の報告についてご了承いただいたということでよろしゅうございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○会長

ありがとうございます。報告をご了承いただいたことにいたします。

(3) 資源物持ち去り行為を禁止する条例の検討について

○会長

それでは、今日追加になりました、先ほど委員のご指摘もありました、条例の検討について事務局から説明いただきます。

●事務局（収集管理課長）

それでは、資源物持ち去り行為を禁止する条例の検討についてご説明申し上げます。資料の一番最後に資料 5 というものがございます。

まず、この条例の検討の目的でございます。テレビ・新聞の報道でご存じの方も多いかもかもしれませんが、近年、不燃ごみとして家庭から出されますアルミ缶などの資源物を持ち去る行為が多発しております。福岡市では、有料指定袋で出されました不燃ごみの中から、資源物でございますアルミや鉄を選別して、これを売却し、福岡市の歳入といたしておるところです。

次に、資料の 2-3 の 6 ページをお開きください。

今現在、問題となっておりますのは、写真にございますように、軽トラックを使いまして、不燃

ごみとして出されました市の指定袋のまま、あるいは袋の中からアルミ缶など資源物だけを抜き去っていく行為でございまして、これが急増しているところでございます。

持ち去りに関します市民からの苦情でございますが、中央部に書いてありますように、平成 21 年度、右端ですが、年間 4 件でございました。23 年度は 107 件、24 年度は 191 件、25 年度は 8 月末時点で 138 件と、ここ 2 年前あたりから急増いたしております。

今年 4 月に全市一斉実態調査を実施しましたが、その結果、19 時から 21 時までの間でございませうけれども、89 件、延べ 105 人の持ち去り行為が行われておりました。そのうち 54 件が軽自動車を使ったものであります。

それでは、もとの資料 5 のほうにお戻りください。

こうした持ち去り行為は、ご存じのように窃盗罪などの現行法令では規制することは困難でございまして、4 月からパトロールを実施しておりますが、なかなか減らない。現状からしまして、何らかの法的根拠となるものが必要ではないかと思っております。そこで、条例の制定を目指したいと考えているところでございます。

次に、条例検討委員会の設置についてでございます。条例化につきましては、実効性を上げるために罰則規定についても検討する必要がありますので、警察や弁護士などの司法関係者などで構成します「資源物持ち去り防止に関する条例検討委員会」を設置しまして、現場レベルでの見解やご意見等を聴取しまして取り組んでいきたいと考えており、あくまでも実務面での意見などをいただくための組織として位置づけておるところでございます。

最後に、検討スケジュールでございますが、平成 26 年度早期の条例施行を目指しまして、年内に市のほうで条例骨子をまとめる予定といたしております。次回の環境審議会総会が来年 1 月の開催予定となっておりますので、そこでご審議いただきたいと思っております。

今、委員から、目的をどのようにするかという部分もきちんと考える必要があるというお話がありました。今後整理していきますが、先ほど申しますように、市の財源になっているのも一つの事実ですし、福岡市は、市民の方が有料で指定袋を買って、ルールに従って出していただいている、市民の方が市にごみの適正処理を付託しているという関係にあるわけで、その履行を阻害する行為であるということになります。また、市民の方々の安心・安全なごみ出し環境を阻害しているという状況もございまして、そういったもろもろを解決するために条例の制定を目指すということになるかと思えます。

以上でございます。

○会長

よろしゅうございましょうか。どうぞ。

○委員

多分、市民の方は、自分たちが有料で買った袋に入れて、それを市が回収するものと信じて出していると思っておりますので、そのあたりをぜひ斟酌ください。ただ、トラックで持っていくようなことは、本当にいけないと思えますけれども、半面、我々のところに日雇労働組合から「私たち

はこれで生きているんだ」という要望もいただいております。そのあたりはまた配慮しながらということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○会長

ほかに何かご意見がございますか。どうぞ。

○委員

うちのマンションもよく、よくわからないトラックがとまっているんですけども、要は、きちんと認可してあげればいいのかと思うんです。市民の立場から言うと、お金のこともありますけれども、公益の中で、市がきちんとリサイクルするということに基づいて今はやっているわけです。それとは別に、古紙なんかのリサイクルというのは、うちは個々の事業者がこういうふうにやっていますと言って、その事業者がチラシを配って、そのチラシに対して、何曜日、何日に出していますというやり方があるって、それに対しての苦情というはないと思うんです。だから、きちんと事業者も——よくわからないおっさんが、ほっかむりまではしていませんけれども、挨拶も何もしないで持っていつているという状況がよくないんであって、そこをきちんと認可していただければいいのではないかと私は思う次第です。

○会長

委員どうぞ。

○委員

今、問題になっているのは、市の指定袋に入れてるから適正な処理だとおっしゃいますけれども、福岡市内には自販機の数相当ありますね。この自販機の横に必ずボックスがあって、この中のものを持っていくのは持ち去り条例の対象になるのかどうかとも検討ください。指定袋だからだめだろうけれども、自販機が、私の町内でも6カ所か7カ所ぐらいあるんですよ。そこに全部ボックスがあって、そこからとっていく部分、これはホームレスの方がお持ちになっていますけれども、これはいいのかどうかとか、いろいろありますので、その辺もあわせて検討ください。回答は要りません。

○会長

この問題に関しては、今日はまだ原案も何もなくて、これから検討しますという報告だけですから、いろいろご意見を伺って、それをもとに検討するということになろうかと思ひます。私は本籍地は法律学でございますので、いろいろと考えるところがあるわけですが、問題とされる事象の全部を取り扱うのか、それともある部分に絞りをかけて条例をつくるのかということも確かに問題で、今、委員がおっしゃるように、およそありとあらゆるものを考える、あるいは、集団回収なども含めて考えるのか、それともある程度絞ってやるのかによって、随分条例のつくり方の技術的な検討が違ってくるといふ面があります。

それから、先ほど委員が言われたお話は、どちらかといえば、民間事業者による不用品の無料回収といった話にまで広がってくるわけですが、これは実は国のほうでも、きちんと法的な手当てをしようということで、廃掃法の中でこの問題を扱うという議論を始めていますので、その動きを見

ながら議論しなければいけない面もあるかと思えます。ということは、この条例の検討にあたっては、廃棄物処理法の法規制の問題と、それから民法のような財産権に関する法律の問題と、いろいろなものが絡んでくるので案外難しい問題だと思います。この間から事務局とも少し内々の検討を始めていますけれども、かなり知恵が要りそうな厄介な問題もありそうです。本日はまだ何も成案があるわけではなくて、市民の要望に応じてこういう条例を検討するという報告がありましたので、この報告をとりあえず今日はご了承いただくということでよろしゅうございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○会長

その上で、条例の制定について審議会が全く知らない間に条例ができるなどということは決して好ましいことではありませんので、条例の骨子について審議会にお諮りして、さらにご意見を伺うことにいたします。その上で、議会で条例の審議を行う市会議員の先生方がたくさんこの審議会委員に加わっていらっしゃいますので、審議会の意見を議会でも反映させていただけますよう、よろしくお取り扱いいただくことになろうかと思えます。

それでは、この件については報告を了承し、検討を始めてもらうことにいたします。

(4) 福岡市環境基本計画（第三次）素案策定作業部会の進捗状況について

○会長

では次に、福岡市環境基本計画（第三次）素案策定作業部会の進捗状況についてご報告いただきたいと思えます。これにつきましては、事務局からまず説明いただきます。

●事務局（政策経営課長）

部会長からの報告に先立ちまして、事務局から、本作業部会の概要及びスケジュールについてご説明いたします。

資料でございますが、資料の3及び参考資料3-1、3-2、3-3でございます。なお、資料3につきましては、作業部会の進捗状況について本総会への報告用として取りまとめたものでございます。参考資料3-1、3-2は、作業部会で用いた資料でございます。これに作業部会における検討内容を反映させたものでございます。

初めに、資料3をお願いいたします。

1の作業部会の概要についてでございます。本作業部会につきましては、去る6月4日に開催されました環境審議会総会における設置の決議を受けまして、審議会の中に設置されるものでございます。

所掌事務につきましては、現行の第二次計画の検証と、その結果を踏まえた課題の抽出・整理及び新計画の骨子・素案の作成でございます。

所属委員につきましては、表に記載の8名の委員の方をお願いしておりまして、去る8月26日に第1回目の作業部会を開催し、藤本一壽委員が部会長に選出されたところでございます。この作業部会には、会長にもご参加いただいているところでございます。

二つ目の策定のスケジュールでございますが、ここに予定表を掲げております。青い部分が作業部会を示しておりますが、来年度の答申に向けまして、今年度はあと3回程度開催の予定でございます。具体的には、本年11月と12月に予定しております作業部会にて骨子案を検討した後、当該骨子案を来年1月の環境審議会総会に報告する予定でございます。そして、審議会のご意見を再び作業部会にフィードバックして、来年2月以降の作業部会で素案を検討し、来年5月ごろの審議会総会に素案の報告を行い、答申案として総会のご了承をいただく予定となっております。概要につきましては以上でございます。

○会長

それでは、続きまして、作業部会部会長から、部会の審議内容について報告いただきます。

○部会長

それでは、私から、8月26日に開催されました第1回の作業部会での議論の状況を報告させていただきます。

本日の資料のうち、第1回目の作業部会では、参考資料の3-1と3-2を用いて、主に現行の第二次環境基本計画の検証——第二次というのは、お手元に今日配られているこの冊子ですね、の検証を行うとともに、新計画に向けた課題の抽出について議論をいたしました。

参考資料の3-1と3-2については、後ほど事務局から詳しく説明をしていただきますが、私からは資料3を用いてご報告をいたします。

資料3の2ページと3ページをごらんください。

まず、2ページの初めのほうの点線で囲っている部分ですけれども、ここに検証の方法を記載しております。

現行の計画は、第1節から第5節まで五つの分野別施策で構成されておまして、それぞれの節ごとに全部で30の成果指標が設定されております。そこでまず、この30の成果指標について個別の評価を行い、各節ごと——五つですが、分野ごとの評価を行いまして、最終的には、3ページの右の下のほうにあります全体の評価を行うという段階的な評価を行いました。

第1節から第5節までの個別の成果指標に関しては、2ページ並びに3ページに記しておりますが、左側のようにレーダーチャートで示し、右側には作業部会で出ました主な意見と検討課題をまとめております。

主な意見としましては、指標のうち、市民の意識調査に基づく評価に関しては、取組み状況も含めて評価すべきといった意見や、循環型社会の構築に関しては、ごみ減量・リサイクルなどは新目標を掲げて取り組む状況になってはいるけれども、近年は横ばいということになっておまして、今後の取組みの継続が望まれること。また、温暖化対策については、運輸部門での削減について自動車そのものの性能向上の寄与が小さくないことにも留意すべきであること。その他、指標の一部に、計測の確実性や適時性確保の観点から新計画に向けて見直しが必要であるといった意見が出されました。

以上のようなことで、お手元の2ページから3ページについての個別の評価に基づいて、最終的

には3ページの右下のような総合評価を行っております。

4ページですけれども、第三次計画に向けての課題につきましては、位置づけに関する課題のほか、策定のポイントとして「他の政策分野との連携」「安全の確保」「市民・事業者の自主的行動の促進」のほか、「わかりやすい体系を整理することに留意する」といった骨子の素案の検討を行っていくことを確認いたしました。

最後に、市民対話に関してですけれども、計画策定プロセスの早期の段階で市民対話を実施して、自由な意見交換の中で出されたアイデア等についても、骨子・素案の検討材料とするという提案が事務局からなされました。これについて、作業部会としても実施を了承するとともに、対象者については、例えば過去に環境行動賞を受賞された方や、「エコ発する事業」の補助団体など、福岡市内において環境活動を実施している方々に呼びかけてはどうかといった意見を述べたところがございます。

第1回作業部会の進捗状況についての報告は以上でございます。

○会長

どうもありがとうございました。それでは、引き続きまして事務局から補足的な説明をお願いいたします。

●事務局（政策経営課長）

ただいまのご報告に補足いたしまして、事務局よりご説明させていただきます。参考資料3-1をごらんください。横向きの資料でございます。

第三次計画策定に向けての課題抽出及び方向性の検討をするため、まずは現行計画の検証を行うとともに、上位計画等の動きや本市の環境に関する市民の意識といった、現行計画策定後の状況の変化について整理いたしました。

初めに、現行計画の検証でございます。

現行計画の位置づけ及び概要につきましては、前回の総会の振り返りとなりますが、2ページから3ページに記載のとおりでございます。また、本計画の位置づけといたしましては、環境基本条例第7条に定められた「環境の保全及び創造に関する基本的な計画」であり、福岡市基本計画——いわゆるマスタープランを、環境面から総合的、計画的に推進するための基本指針でございます。環境像は「ときを超えて、人が環境と共に生きるまち」で、計画期間は平成27年度まででございます。主な特徴といたしましては、環境政策を重点化したこと、地域の環境特性を生かした施策の推進や、分野横断的な施策の展開について示したこと、そして、表の1の右側にある30の成果指標による進行管理を行うとしたことでございます。

恐れ入ります、4ページをごらんください。

次に、現行計画の検証方法でございますが、まず、各成果指標に対する目標達成度をスコア化し、表1のとおりAからCの評価をつけました。データ不足のもので評価が難しいものはZとさせていただいております。しかし、個々の成果指標の結果だけで施策全体の評価をすることは適当ではないため、事業の実施状況や外部要因等の状況といった数値にあらわれない要素を考慮した上で、総

合評価——つまり表の2になります。星の数が一つから三つまでであらわす評価をつけました。この方法に基づき、各成果指標の評価を節ごとに整理したものを、次の5ページ以降に記載しております。これは、作業部会において、事務局より提示した評価案について、委員の皆様からいただいたご意見を反映したものでございます。

5ページをごらんください。

現行計画の分野別施策は、第1節から第5節までとなっております。それぞれの節ごとに1ページで整理しております。なお、ここに示しております個々の成果指標の評価につきましては、参考資料3-2で詳細に記しております。

一つ例示をとらせていただきたいと思います。参考資料3-2の2ページをお開きください。

成果指標の(1)自然環境への評価という項目でございます。ここでは真ん中の折れ線グラフが示すとおり、実績値をあらわす黒の実線が基準値と目標値を結ぶ赤の点線である参考線を下回っているという状況でありますので、目標達成度はCとなり、総合評価は事業の実績や外部要因等を考慮しても、この場合の総合評価は星一つという評価をさせていただいております。このような形で、30の事業一つ一つに対しまして評価をしているものでございます。

参考資料3-1にお戻りください。参考資料3-1では、この結果の概略を節ごとに一つのページにまとめております。こちらのほうで説明をしてみたいと思います。

再び5ページをお願いいたします。

5ページは、第1節、いわゆる生物多様性の分野でございますが、ここでは市民意識調査の結果に基づく指標が多かったのですが、こういった成果指標につきましては、取組内容も含めて総合的に評価すべきであるといったご意見が出されました。

恐れ入ります、6ページをごらんください。

第2節、歴史やすぐれた景観を生かした快適なまちづくりにつきましては、おおむね評価が高く、市民のマナーに対する取組みなどが評価できるといったご意見をいただきました。

7ページをごらんください。

第3節は、環境保全の分野でございます。こちらにつきましては、ここの中で10個ある成果指標の全ての総合評価が、星二つ、星三つとなっております。しかしながら、健康で安全・安心な環境の確保に向けて、今後も取組みの強化が必要であるところのご意見をいただいたところでございます。

8ページをごらんください。

第4節は循環型社会の分野でございます。ごみ減量・リサイクルについては、目標を前倒して達成し、新目標を掲げて取り組む状況になっているものの、近年はごみの処理量が横ばいとなっていることから、取組みの継続が望まれるといったご意見をいただきました。

9ページをごらんください。

第5節の中で温暖化対策につきましては、運輸部門での温室効果ガス削減について、自動車そのものの性能向上の寄与度が小さくないことにも留意すべきであるところのご意見が出されました。その他、成果指標につきましては、計測の確実性や適時性確保の観点から、新計画に向けては見直しが必要

要であるといった意見が出されました。

10 ページのレーダーチャートは、資料3に記載していたものと同じものでございます。

続きまして、現行計画策定後の状況の変化でございます。11 ページをごらんください。

地球温暖化の進行と気候変動がもたらす豪雨の頻発など異常気象の増加や、生物多様性の喪失に加え、東日本大震災を契機とした安全確保や節電、エネルギーに関する意識の変化、PM2.5をはじめ、健康に影響を及ぼす環境問題に対して市民の関心はますます高まっており、従来の環境政策のあり方にも大きな変化が求められていることがわかります。

また、12 ページでは、国等の上位計画の動きを整理しております。

ここまでの分析を踏まえ、新計画に向けた課題について整理したところでございます。

最後に4番、市民対話につきましては、参考資料の3-3ということで、本日チラシをお配りしております。現在、福岡市環境行動賞受賞者や団体及び「エコ発する事業」実施団体を対象に参加募集を行っているところでございまして、10月26日土曜日に、「ふくおか環境市民カフェ」ということで市民対話を開催する予定でございます。

以上でございます。

○会長

前回の総会でご了承いただいて設置いたしました「環境基本計画の見直しのための検討部会」の報告をいただきました。その第1回の会合で、これまでの計画の進捗状況について評価をしたということ、まず中心にご報告いただき、今後の検討のために市民対話の促進ということが必要ですが、前回も申し上げましたけれども、今回は福岡で実際に活動しておられる方々に生の声をお聞かせいただくということはどうかということで、資料3-3にあるような環境市民カフェを開催して、そこで忌憚のないご意見を伺わせていただき、これを参考にしてはどうかと考えたという報告でございました。

それでは、ただいまから、しばらくの時間ですが、この報告につきましてご質問なり、ご意見なりございましたらお伺いいたします。いかがでございましょう。

それでは、順番にお願いいたします。

○委員

この3-1の5ページからその後が続くんですが、この評価の方法については興味がありますし、これをどう見るかといったところで質問したいんですが。

まず、成果指標——政策評価をやろうとされているわけですが、そもそもこれは定量的な評価だけですか。

○会長

もともと成果指標としては、このときには定量的にあらわしていこうと考えたのですが、ただし、全部が定量というわけでもなく——定量という表現がいいかどうかわかりませんが、森林のようなものについては減らしませんと、要するに現状維持ということを言っていますので、それも定量といえは定量ということになります。

○委員

わかりました。それで、これは前回は踏襲されてないという理解で私は説明を受けたんですが、総合評価というのを持ってきて、成果指標だけでなく総合的に評価しましょうと。いろいろなところでよくこういう評価というのは使われていると理解しますし、現実的にはこういう処理しかないかなというのは私も経験上思うんですが、かといって、何かよくわからなくなるところもあるのかなという気がするんです。厳密に成果指標で出していたものに対して、1回きちんと評価をして、それ以外の、何て言うんですか、私は定性というふうに理解しているんですが、そこでプラスアルファどう考えるかということなのかもしれませんが、その比重は、どういう比重で考えるべきなんでしょうか。

○会長

部会長が答えるのが筋なのだろうけれども、私もその場におりましたので私が答えさせていただきますと、成果指標をつくったとき、その後それを埋めるためのデータが、当初思惑で考えていたようなデータが入らないものが結構あるということがわかってきたわけです。それで、成果指標の数字で全部ぱっとやれば一番きれいなものだけでも、そうはいかんということになりました。

もう一つは、成果指標の設定の仕方に問題があって、ほんとうに実態とうまく合わない部分があるなということもわかりました。だから、これはきちんとそれなりに施策としてはよく進んでいるじゃないか、成果指標として出していないからって、それを全部低い評価にするのはおかしいという意見が出てまいりまして、いろいろ議論をし、ここはこういう努力もしているんだからその分を考慮すればこういうことではないかというような修正を加えて、それを何て呼んだらいいかな、総合評価がいいのか、何がいいのかなということ言うことになったわけです。わかりやすく言うと、大学の教師は学生さんの成績をつけるとき、試験の点数だけでつけないで、平素の成績というものがある。それを加えて、まあ通してやるかみたいなことがあります。割合に委員に大学の教師が多いものですから、そういう発想になれていまして、それでえいやとやったというところがあります。

○部会長

ご質問の趣旨は、この評価が絶対的なものかどうかということと、それから、これを受けて次にどうするか、次の計画の策定に当たってこれをどのように用いるのかということだと思います。

前者に関していうと、絶対的な評価で、これが絶対的に終わりましたとか、これでこの基本計画は終わりで点数が何点でしたとか、そういうことをする気持ちは全くありません。これまで環境プランからスタートして、第一次、第二次まで来て、これから第三次をつくりましょうということですので、今まで実際の計画の達成状況を踏まえて次に進むということはあまりやられてなかったように思うんですが、そういう意味では、今回、二次まで来たところで少し見直しをした上で、第三次の計画に反映させようという趣旨です。したがって、この星が三つついているからもうやめましょうとか、そういうことは全く考えておりませんで、どうするかというのがこれからの議論でございませう。

○委員

私たちの世界でも人を評価する際には勝手な議論をよくするんですけれどもね。政策ができたかできなかったかというのはよくやるんですけれども、この星がどういう意味なのかということ、市民の皆さんがしっかり理解することが前提だと思うんです。私は、そういう意味では、政策評価で数値を出したというのは画期的です、その意味というのは、行政サイドではかなり大きく頑張られたんだと評価したいと思います。そうすると、この数値のところはどうだったかという評価を厳密にというか、しっかりやることに意味があるのではなかろうか。もっと言えば、そこに現実との乖離があれば、そもそも目標設定の根拠だとか、そういったところがどうだったかという検証をやられるべきではないかなという感じがするんです。素人が、何かわかったような、わかってないようなことを言っていますが。

○会長

わかりました。おっしゃるとおりです。ですから、この指標そのものも見直さなければいけないとか、こう考えてみたけれども数字が実際全くとれないようなものはだめだし、これで本当に実態把握できているかとかということなんです。

例えば、一つの例を挙げると、公共交通機関利用による30分圏というのがあります。だけど、たった5年間で、これはすごく市の住宅地域が広がっているのです。そうすると、分母が変わってしまうものだからかつてとは単純な比較にはならないということがだんだんわかってきて、しょうがないという話になりました。同じ場所を基準にして、定点で数字を出せばいいのですが、資料の作り方がそうではない。もともとの数字の作り方がそういうものであることをよく知らないままに、とにかくそれはよくなるものだとして信じて指標にしていたのですが、数字が悪くなる一方です。おかしいな、といって事情を正せばそういうことがわかってきました。

○委員

わかりました。それ以上のことは私はわかりませんが、一步退いて、二歩進むぐらいの気持ちでやろうということですから、そういう意味で参加させていただきます。

○会長

ご理解いただければ幸いです。では、委員どうぞ。

○委員

大変システムチックで、チャレンジングな評価だと思って、すごく感心してお聞きしておりました。私は、計画の自立性とか独立性という観点からの外部要因というのが非常におもしろいなと思ったんですけれども、特に想定されてないというのが多くて、あんまり外部要因はきいてないと思います。そもそも外部要因がプラスなのか、マイナスに働いているのか。それから、全体として福岡市の環境基本計画（第二次）で、外部要因の総合評価へのコントリビューションがどのくらいあったのか。多分直感でしか言えないかと思うんですけれども、その辺、外部評価の感じ、どういうふうに評価されたのかなという。全体としてプラスだったのか、マイナスだったのか、ニュートラルだったのか。

○会長

詳しいことは3-2の5表を見ていただくほうがいいのではないかと思います。5表に外部要因を入れてあります。この中には外部要因と言えないようなものも挙がってはいるのですが、それを見ていただくと、プラスに効くもの、マイナスに効くもの、いろいろあります。さっきのように、30分圏というのは、もともとのデータのとり方をこっちが間違っていたというのに気がついたのですが、地域が広がってしまうとどうにもならないというのがあって、そういう要因はやむを得ないということになっています。要するに、数字が芳しくない理由として外部要因がきいてくるものもあるし、それから、これには露骨に書いてないんですけども、電力原単位などというものは、市民の立場で言ってみればまさに外部要因そのものです。ですから、そこはある意味じゃいかんともしがたい面があるをご理解ください。

それでは、委員、どうぞ。

○委員

さっき手を挙げてなかったんですけども、せっかく回ってきたんで、1点だけ確認させてください。前回、部会で議論したとき以降、政策評価のことを調べる機会があったんですけども、この基本計画の評価は、国の「行政機関が行う政策の評価に関する法律」を踏まえているということでしょうか。

○会長

いや、必ずしも政策評価の考え方ではなくて、単純に計画の進行管理としてやっているだけです。ですから、政策そのものの評価をこれでやっていると言われると、ちょっときつい。そこまで厳密にはやっていません。

○委員

わかりました。随分、関連が深いなと思って。どうせやるんだったら、先ほどの指摘であったような2点の目的がきちんとあって、その次の施策に反映させるというのと、国民——この場合は市民ですけども、市民への説明責任という2点があって、きちんとガイドラインとかに沿ってやっていくといいかなと思った次第です。

○委員

技術的なことだけなんですけれども、レーダーチャートは非常に見やすくいいなと思って。ただ、これを見ると、点線のところと実線のところがあって、統一すべきなのかなと思ったんです。個人的には実線で引かれているほうが、ゼロはないんですけども、1, 2, 3 というのが、ぱっと見でわかると思うんで、統一のときにどちらかにされたほうがいいと思います。以上です。

○会長

今の点は、修正のときの単なる技術的ミスです。

委員、どうぞ。

○委員

3-2の資料ですけども、総合評価案、行政にかかわる皆さんがこれをどう評価するか、この評価から何を学ぶかという問題が、私は1点あるのかなと。

一つは、福岡の都市像「第三次産業都市」ということが、三つの星に——例えば、第3節の第3項から第4節の第1項、これは環境局の取組みの成果もあるかもわかりませんが、行政の進んだ分野も含めて、三つ星の背景にあるのかなと。

それから、一つ星で、このごろ私どもが厳しく指摘されるのが、第1節の第2項の(2)の「地域の公園の親しみ度」。進藤市長の時代は「公園愛護会」というのが、ある面では全市的にあったような気がします。今、公園は草がぼうぼうと生えているんですよ。子供たちが遊ぶのにも遊びようがない。砂場はこちこちだし、犬猫のふんがあるということで厳しくいろいろ指摘されるんですね。そういうものが星一つに示されている気がします。公園の問題は環境局の仕事ではないんですけれども。この総合評価案を行政にどう反映させるかというのも、一つの参考資料として見てみると、行政が今手を抜いているところとか、十分深めきっていないところとか、福岡市の都市のあり方の特徴とか、こういうのがたまたま——たまたまと言うと失礼な言い方になりますが、この表はあらわしているのかなと実感をいたしました。感想です。

○会長

ありがとうございます。ご指摘の点は、全部意識調査の部分です。ですから、おっしゃるように市民の意識がそういうふうになっているので評価が低いわけですね。あとは客観データですから、わりあい物量でいけるのですが、それでカバーできない市民意識のところでは評価がぐんと下がっているということはおっしゃるとおりです。ですから、これは環境局としても考えなければいけない。しかし、環境計画というのは、環境局がつくる計画ではなくて市長がつくる計画で、市長としては、その計画に基づいて各局にこういうことをやれよということを行わなければいけない。特に、我々が内部的に議論しているところでは、緑へのふれあいなどという項目は、ちょっと工夫して、街路樹の下の花壇を里親みたいな方々がいて手入れするような仕組みが広がっていれば、それだけでも随分違うはずだろうと思います。そんな仕組みが十分できてないことも一因ではないかという話がある話がある話です。緑との親しみというのは、何も森の中に行かなければならないという話ではないわけですから、まさにおっしゃるとおりのことを私も感じて、事務局には伝えております。

どうぞ、委員。

○委員

基本的な考え方として、2点お願いがあります。1点目は、今、会長が言われましたように、この計画そのものは環境局だけの計画ではない、市の計画だということで、基本的には事業部局までを動かす計画に、ちょっとでもいいから踏み込んでいただきたいというのが第1点。

第2点目が、指標の満足度という星であらわされているところは、例えば水環境の場合ですと、環境基準というのが当然第1番目に出てくることはしかりなんですけれども、今日も少しお話がありましたように、国のレベルで設定されているものに対して、ローカルな条件でもう一工夫踏み込んだものにしないといけないということで、例えば、博多湾の夏場の赤潮を抑えるために、夏は窒素、リンを下げます、冬はワカメの養殖を考えて増やします、けれども、トータルとしては国の規準は満足していますというふうに、ローカルな条件に対しては、国の規準を満足すると同時にロー

カルな要求を満足させるということが考えられると思います。そういう意味で、具体的には、例えば水環境の場合ですと、環境基準達成だけでなく、もう一つ細やかな、スケールの小さいところで条件を満足させるようなところまで環境保全のお話で踏み込んでいただけるとありがたい。

○会長

大変難しい話ですが、おっしゃるとおりだと思います。環境基準が指標になるのかというのは、国の環境基本計画の点検の議論をするときにも、指標検討会で大問題になっています。なにしろ水の健康項目が25項目もありますから、それを一つひとつ拾って行って達成率などと言い始めるとすぐ数字がよくなってしまって、本当かな、という話になるおそれがあるわけです。その辺のところを考えなければいけないことにはすでに気がついていまして、十分に検討させていただきたいと思います。

他にございますでしょうか。よろしゅうございますか。

〔「なし」の声あり〕

○会長

それでは、環境基本計画の検討に関しては、さらに作業部会の作業を部会長のもとで進めていただきまして、次の総会には計画の骨子のようなものをお示しできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(5) 福岡市環境審議会視察について

○会長

それでは、次の議題でございますが、福岡市環境審議会視察について事務局からご説明をいただきたいと思えます。

●事務局（政策経営課長）

視察のスケジュールについてご説明いたします。

資料4、「環境審議会視察について」というペーパーをごらんください。

視察につきましては、10月30日の水曜日に実施予定としております。去る6月の審議会後に、ご希望日の事前調査を行ってございましたが、最終の出欠確認を本日させていただきたいと考えております。お手元に1枚もので、このペーパーですね、審議会視察出欠表というものを書かせていただいております。お手数ではございますが、こちらのほうにご記入をいただき、机の上にそのまま残してお帰りいただくか、あるいは、今日スケジュールがわからないと言われる委員の先生は、後日事務局までご返送いただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

行き先につきましては、鳥栖市にございます「鳥栖環境開発総合センター」と、大木町にございます「おおき循環センターくるるん」という2カ所でございます。現在のところ、時間としては、4の視察行程案のところに記載しているような内容で考えております。以上でございます。

○会長

それでは、先般、場所についてはご決定いただきましたように、ここにございます2カ所を視察す

ることにしておりまして、10月30日に実施ということでございます。よろしく願いいたします。
何かご質問ございませんか。よろしゅうございますか。

〔「なし」の声あり〕

○会長

それでは、本日の審議会の議事をこれで終らせていただきます。
あとは事務局からお願いいたします。

3 閉 会

●事務局（政策経営課長）

会長、委員の皆様、本当にありがとうございました。

それでは、最後に、環境政策部長よりご挨拶がございます。

●事務局（環境政策部長）

本日は、本当に長時間にわたりまして、熱心なご議論を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

本日、委員の皆様方からいただきました貴重なご意見につきましては、今後の環境行政に適切に反映させてまいりたいと考えてございます。今後とも、本市の環境行政の推進につきまして、皆様のご指導、ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の環境審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。